

第3章 歴史・文化芸術

第1節 特色ある地域文化の推進

1 文化芸術活動の振興

(1) 現状と課題

文化芸術は、人々に感動を与え、生きるための前向きな力を育むとともに、人々の情緒と感性が磨かれることにより、地域の特性を活かした多様な文化の発展や、地域社会の活性化が期待されています。

本市においては、市民を対象に舞台芸術等の鑑賞事業や市民の文化芸術活動をサポートするための事業を展開しています。

また、アートビレッジ構想に基づき、日本や世界に通用する美術家・音楽家の育成や、幼児・若年層等が美術に触れるきっかけづくりとなる事業も実施しています。

今後は、地域に根差した特色ある文化芸術活動を発展させていくために、誰もが気軽に参加できる事業の実施や指導者の養成等の担い手となる人材を育成する取組が必要です。

(2) 課題解決のための推進方策

- 市民のニーズに応じた芸術鑑賞機会の充実
- 子どもたちが文化芸術に触れる機会の充実
- アートビレッジ構想に基づく、様々なレベルに合わせた人材育成事業の展開

(3) 目標設定

- ◎ 推計人口に対する市が主催・共催する文化芸術公演鑑賞者数の割合
(巡回小劇場、西いぶり定住自立圏文化事業、NPO法人伊達メセナ協会等)

目標設定年度 2017年度(平成29年度)	中間年度 2023年度	目標年度 2028年度
7,301人(人口34,579人)	7,470人(人口32,477人)	7,661人(人口30,642人)
21.11%	23.00%	25.00%

※ 目標設定年度の人口は、年度末における住民基本台帳人口

※ 中間年度及び目標年度の人口は、国立社会保障・人口問題研究所の推計値(2018年(平成30年)推計)を基に算出

第2節 歴史文化を活かしたまちづくりの推進

1 歴史文化資源の活用

(1) 現状と課題

本市には、国・北海道・市の指定を受けた史跡や重要文化財、記念物があるほか、市民が所有する古文書や武具甲冑類、仙台神楽などの有形・無形の文化財が数多く存在しており、その中には、史跡北黄金貝塚公園や迎賓館のように広く公開・活用されている文化財もあります。

しかし、大半は有効に活用されておらず、市民や観光客の多くがその価値を理解できていないのが現状です。

市民がわがまちへの愛着を持ち、誇りを感じられるようになるには、本市の歴史と文化の成り立ちを正しく理解し、学校教育や社会教育の場において歴史文化資源を活用することが不可欠であり、経済活性化やまちづくりを進める上で、これらの価値を広く周知し、理解を促進しながらさらなる文化資源の保存に繋げていくことが重要です。

(2) 課題解決のための推進方策

- だて歴史文化ミュージアムの活用
- 博学連携*1の取組

(3) 目標設定

◎ だて歴史文化ミュージアム（本館）の有料入館者数及び満足度

	目標設定年度 2018年度(平成30年度)	中間年度 2023年度	目標年度 2028年度
有料入館者数	—	20,000人	20,000人
アンケート調査の満足度 (来館者)	—	70.0%	90.0%

*1 博学連携とは、
博物館と学校が相互に連携・協力して子どもの教育に当たる取組。

2 文化財の保護と適切な展示保管環境の維持

(1) 現状と課題

本市に所在する多くの文化資源のうち、特にその価値を認められて国・北海道・市から指定を受けた文化財は、後世に確実に引き継ぐために、それぞれの材質・性質に適した維持管理が必要です。

また、北黄金貝塚や善光寺跡のように観光客が多く訪れる史跡は、来訪者管理を適切に行い、き損の防止と周囲の景観保護を図ることが重要です。

さらに、未指定の文化財を保護するために、計画的な指定化を推進することや、市内の展示保管施設における適切な維持管理等を行っていく必要があります。

(2) 課題解決のための推進方策

- 指定文化財の保護対策と指定化の推進
- 展示保管施設のモニタリングによる管理

(3) 目標設定

◎ 国・北海道・市による指定文化財の新規の指定件数

目標設定年度 2018年度(平成30年度)	中間年度 2023年度	目標年度 2028年度
—	1件	3件

※ 指定件数は累計による。

